

ジュッペちゃんの涙（最終号）

平成 25 年（2013 年）3 月 1 日

大中里保育園 園長 塩川寿平

皆さんお世話になりました。『ジュッペちゃんの涙（No.64）』が最終号となりました。

早いものでジュッペちゃんが大中里保育園の園長さんになってから7年の歳月が過ぎました。年齢は74歳になりました。平成25年3月31日をもって退職となります。

平成25年度からは副園長の塩川恵美子さんが園長先生になります。『ジュッペちゃんの涙』も、『エミちゃんの園長先生だより（仮題）』に引きつがれます。よろしくネ！

● ジュッペちゃんが7年間でしたこと

(1) まず、卒園児は71名となりました。小学生となって巣立っていきましたが、小学校へ行って困った生徒は一人もおりません。大中里保育園での生活と遊びと学びが一人一人の園児の成長にぴったり合っていたからです。これがジュッペちゃんのしたことです。

● ジュッペちゃんが7年間で一番伝えなかったこと

(2) 保育園は小学校の予備校ではありません。0歳児の赤ちゃんには赤ちゃんの人生があるのです。1歳児には1歳児の人生があるのです。同様に2・3・4・5歳児には、それぞれ替えがたい発達段階があるのです。保育園の「生活」と「遊び」の中にはいっぱい「学び」がありました。だから小学校1年生になっても困らない実力が育っていたのです。

(3) 生活と遊びによる教育。人的環境と物的環境の両輪による教育。自主的・主体的な体験学習による教育。これらの全部がそろっている保育園が大中里保育園なのです。

(4) 園児の笑顔を見ているとこの保育園が子どものための天国だということが分かります。『泥んこ遊びができるんだぜ（＝子どもらにはチョコレート工場）』『砂場でプリンを作るんだ（＝本気だぜ、本物だぜ、ホントに美味しいよ）』『発達にあった絵でいいんだよ（＝この保育園は、太陽に目を描いても笑う大人がいないんだ）』だからのびのびと成長できるわけ。

(5) 小学校へ行って困らないかって。大丈夫だよ。ジュッペちゃんは大学の先生だったんだから乳幼児心理学・精神分析学・大脳生理学・幼児教育学の学問でしっかり科学的に説明してくれるよ。



(6) 保育園時代の特色は、赤ちゃんは一人称の人格が大半を占めています。家庭でのしつけや保育園の友達関係のなかで少しずつ社会性という二人称が育ってきます。乳幼児の行動や作品や愛情（人間関係）は、「一人称の脳」と「二人称の脳」で作られています。自己中心主義です。主観主義です。空想主義です。非科学主義です。時間の観念がありません（今を生きております。過去や未来が分かりません）。恥ずかしいがありません（裸でも平気です）。よく児童画が分からないといいますが、それは児童が分からないからです。

(7) 小学校へ行く頃には人格が変容するのです。別人になると言っても良いでしょう。『脱皮の理論』と言います。幼虫から＝さなぎになって＝蝶々に生まれ変わるように見事に変容します。脳の中に三人称を使い分ける機能が育つのです。民主主義が分かるようになります。合理主義が分かり、経済観念も育ちます。野球のバントの意味が理解できて自己犠牲ができます。だから保育園時代にはしっかりと発達に合った保育園時代の体験学習をすれば、別人に脱皮して客観視も科学視も芽ばえるので、小学校へ行って困らないのです。

ではみなさんさようならお元気で！

